

北日本漁業経済学会 ニューズレター

第34回 ひたちなか大会報告

05年9月16日(金), 17日(土)の両日にわたり, 茨城県ひたちなか市・ワークプラザ勝田において, 第34回北日本漁業経済学会大会が開催されました。地元茨城県水産試験場等関係諸団体のご協力により, 全体で約60名の参加者を得て, 下記の通り, シンポジウム, 一般報告, 総会および懇親会を滞りなく実施することができました。大会準備にご尽力いただいた茨城県水試等関係者の皆様や参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。また, 本大会には北海道漁業協同組合連合会の御協賛をいただきました。ここに記し, 改めて謝意を表します。

シンポジウム(9/16)

テーマ: 漁業の「多面的機能」に関する検討の課題と展望

コーディネーター 廣吉勝治(北海道大学)

司 会 加藤辰夫(福井県立大学), 濱田武士(東京海洋大学)

(講演者)

1. 論点開示 - コーディネーターの冒頭発言 -

廣吉勝治(北海道大学)

2. 漁業の多面的機能に関する国民意識の形成と実態

麓 貴光(株・水土舎)

3. 漁業における多面的機能把握の課題 - 学会会議「答申」を対象に -

工藤貴史(東京海洋大学)

宮澤晴彦(北海道大学)

4. 多面的機能に関する支援方策の特徴と課題 - 農林漁業の相互比較 -

吉田謙太郎(筑波大学)

5. 干潟漁業の実態、機能、課題 - 三河湾を事例として -

鈴木輝明(愛知県水産試験場)

6. 霞ヶ浦の環境再生と漁業の多面的機能

二平 章(茨城県内水面水産試験場)

総合討論 司会；加藤辰夫（福井県立大学），濱田武士（東京海洋大学）
懇親会 於；ワークプラザ勝田内レストラン 司会；二平章 参加者；29名

一般報告(9/17)

1. 遊漁船業者組織化についてのインタビュー調査

小川砂郎（神奈川県環境農政部水産課）

2. 産業連関表を用いた水産振興の評価と水産基盤整備の費用対効果産出に関する研究 - 函館市5市町村合併を事例にして -

浅川典敬（水産庁漁港漁場整備部計画課），古屋温美（マリノプランニング）
中泉昌光（国土交通省北海道開発局農業水産部水産課），横山真吾（地域開発研究所）
長野章（公立はこだて未来大学）

3. 仲卸業者経営における情報の利用と情報化システムの構築

尹海梨（東京海洋大学大学院）

4. QRコードを伝達媒体とする水産物トレーサビリティシステムの構築

若林隆司（アルファ水工コンサルタツ），桑原伸司・清野克徳（北日本港湾コンサルト）
鳴海日出人（日本デベロップメント），古屋温美（マリノプランニング）
三上貞芳・長野章（公立はこだて未来大学）

5. 漁業の活力の差が水環境に及ぼす影響 - 霞ヶ浦と小川原湖の対比 -

乾政秀（株式会社・水土舎）

6. 共有共同漁業権成立の背景と漁業管理 - 茨城県鹿島灘海域を事例として -

黒瀬総一郎（東京大学大学院），柳田洋一（茨城県水産試験場）

7. 合併漁協にみる経営の課題 - 合併後10年を経た島根県A漁協を事例に -

土江秀治（東京海洋大学）

8. 広域合併漁協の販売事業政策

三木克弘（中央水産研究所）

9. 2006年水産経済の予測

- 原油高，円高，水産資源低位下での漁業経営は？水産物需要は？ -

岡本勝（中央水産研究所）

総会・理事会報告

本大会における学会総会は加藤辰夫氏（福井県立大学）を議長に選出し，9月18日午後12時45分よりワークプラザ勝田において開催されました。また，これに先立ち，9月17日には同じくワークプラザ勝田において理事会が開催されました。以下，主な協議内容，報告事項についてご報告致します。

(1) 新入会員承認

前回大会以降，新しく入会が承認された方々は，ウチ村・イナ・ガ・アヒス・ホブナ（三重大学大学院），工藤貴史（東京海洋大学），佐藤庸介（水産総合研究センター中央水産研究所），玉置泰司（同

前), 富塚叙(同前), 土江秀治(東京海洋大学大学院), 副島久実(広島大学大学院), 関根幹男(株式会社フィスコ), 尹海梨(東京海洋大学大学院)の9名の方々です。

*なお, 本総会以後, 下記4名の方々が新規入会手続きをとられましたのでご紹介します。

大島肇(株・漁村計画研究所), 坂本幸造(函館大学付属有斗高校), 黒瀬総一郎(東京大学大学院), 川上秀和(水産総合研究センター中央水産研究所)

(2) 学会誌・短信発行計画

本年度も例年通り, 学会誌「北日本漁業」第34号を2004年3月に発行する予定です。内容は34回大会シンポジウム講演論文と一般投稿論文等となります。短信(ニュースレター)につきましては, 年末, 2006年3月, 7月の計3回発行する計画としました。

(3) 次年度大会開催地およびシンポジウムテーマの計画

次年度大会開催地・会場については, 札幌市の北海学園大学を予定することとしました。開催時期は10月10日前後で調整する方向です。シンポジウムのテーマにつきましては, 漁村社会再編の現局面, 水産業のマクロ的動向評価, WTO体制下の水産物市場・貿易などがあげられましたが, 決定には至らず, 事務局で準備をし, 担当理事を中心に決めていくこととしました。なお, シンポジウムテーマについては, 会員アンケートをとってはどうかとの意見もあり, 事務局で検討していくこととなりました。

(4) 決算・予算

決算(特別会計決算を含む)につきましては, 鈴木, 山下両監事の監査報告(文書報告)を含め, 原案通り承認されました。また, 2005年度予算案についても原案通り承認されました。以下に承認された決算書, 予算書を掲載します。

2004年度 決算

(2004年10月1日～2005年9月30日)

(円)

収入の部				支出の部				
科目	内訳	決算額	予算額	備考	科目	決算額	予算額	備考
会費	個人	652,000	770,000		印刷費	1,042,230	850,000	第33号会誌・要旨集・会員名簿
	団体	310,000	335,000					
	小計	962,000	1,105,000					
会誌等販売	定期	37,250	30,750	5機関	謝金・賃金	2,000	100,000	短信・ニュースレター
	バックナンバー	10,000	40,000					
	その他	4,000						
	小計	51,250	70,750					
雑収入		38		定期・ミニシボ	小計	1,179,647	1,120,000	消耗品費・会議費 雑費
特別会計から繰入		132,525	利息等					
特別会計から繰入		132,525			特別会計へ繰入	100,000	100,000	定期・ミニシボ
前期繰越金		1,463,384			次期繰越金	1,329,550	1,330,210	
計		2,609,197			計	2,609,197	2,550,210	

2004年度大会関係特別会計決算報告

(円)

	収入	備考		支出	備考
学会一般会計から繰入	100,000		講師謝金	20,000	会員外講師2名
道漁連助成	100,000		懇親会費	105,000	本大会
東京水産振興会助成	50,000		機材・消耗品費	6,968	ケーブル, 文具, コピー等
網走市水産振興協議会助成	50,000		会議費・会場費	71,417	会場賃料, 弁当, お茶等
資料費	31,000	31名分	事務局交通費	79,090	
懇親会費	84,000	24名分 × 3,500円	一般会計繰入	132,525	
計	415,000		計	415,000	

注: 2004年8月25 - 27網走大会, ミニシボ(ひたちなか)2005年4月22日に関する収支

2005年度 予算

(円)

連絡:

4月の春季研究集会(ミニ・シンポ)を、今年中止します。事務局体制の再編など、いろいろ課題が山積してしまっていて検討が必要です。その代わりに、4月に理事会を開催し、この問題を含め学会の事務局体制・組織の問題等検討してもらいたいと思います。理事・監事の皆さんには事前にご案内を致します。

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
会費収入(個人)	700,000	169名(内学生は12名)	印刷費	800,000	第34号,要旨集
会費収入(団体)	310,000	22団体	郵送費	90,000	短信・ニューレター
会誌販売(定期)	20,000	4機関	謝金・賃金	50,000	
会誌販売(臨時)	20,000		事務費	50,000	消耗品費,会議費,雑費
前期繰越金	1,329,550		特別会計へ繰入	100,000	大会特別
			次期繰越金	1,289,550	
計	2,379,550		計	2,379,550	

注)年会費:一般5000円,学生3000円,団体1口10000円(10口,0.5口各1団体含む)
4機関:三重大学,東京海洋大学,福井県立大学,長崎大学の各図書館

(5) 学会役員改選・学会誌編集委員改選

会則第10, 12, 14, 17条および内規等に基づき,任期満了に伴う役員改選が行われ,下記の通り理事24名(うち常任理事10名),監事2名,特別顧問1名が選出され,会長に池田均,副会長に服部昭の両氏が再任されました。また,学会誌編集委員については鈴木旭委員長以下7名が選出されました。

(6) その他

会員名簿の作成について

次年度は会員名簿作成の年になっております。しかし,個人情報保護法との関係も考慮し,今回は名簿への掲載について本人の承諾をとるべきといった意見が出され,他学会の対応等も参考にして,事務局で検討していくこととなりました。

事務局体制について

現在,当学会の事務局は北海道大学水産学部に置いていますが,助手の削減,大学院生の減少,水産経営研究室の農学院への移行等があって,現体制を維持するのが困難になっております。総会では予算措置(アルバイト雇用等の)も含めて,事務局の再編整備について今後検討していくことが確認されました。

新しい学会役員

会長; *池田均(北海学園大学) 副会長; 服部昭(八戸大学)

特別顧問; 児島修治(北海道信漁連)

理事; *宮澤晴彦(北大水産学部), 板倉信昭(水産大学校), *上田克之(水産北海道協会)

上田昌行(水土舎), 柏谷義信(北海道栽培漁業振興公社), *濱田武士(東京海洋大学)

東村玲子(福井県立大学), *古林英一(北海学園大学), 栗原修(東京水産振興会)

*甫喜本憲(財団法人・水産科学研究奨励会研究員), *宮崎隆志(北大教育学部)

清水幾太郎(さけます資源管理センター), 杉山秀樹(秋田県水産振興センター)

佐藤一(網走水産試験場), *宮田勉(岩手県水産技術センター)

*廣吉勝治(北大水産学部), 田尾直之(漁協経営センター)

二平章(茨城県内水面水産試験場), 柳沼武彦(元北海道指導漁連)

*廣田将仁(青森県下北ブランド研究開発センター), 松浦勉(中央水産研究所)

山崎誠(西海区水産研究所)

監事; 鈴木旭(北海道大学名誉教授), 山下成治(北大水産学部)

(注)* は常任理事。 事務局長；宮澤晴彦

新しい学会誌編集委員

委員長；鈴木旭（北海道大学名誉教授）

委員；上田克之（水産北海道協会），田尾直之（漁協経営センター），宮崎隆志（北大教育学部）

長谷川健二（三重大学生物資源学部），古林英一（北海学園大学）

宮澤晴彦（北大水産学部）

大会感想文

北日本漁業経済学会大会シンポジウム「漁業の多面的機能」に参加して

カリフォルニア大学デービス校
農業資源経済学部博士課程 内田洋嗣

去る 9 月 16 日、東京海洋大学の馬場先生からのお誘いもあって、大会シンポジウムに参加させて頂きました。約二年前に博士論文のテーマを決めるまでは日本の漁業とはまるで無縁だった私にとって、本大会シンポジウムは少しでも日本の漁業が置かれている現状を知る上で貴重な機会となり、大変勉強になりました。

昨年開催された IIFET（世界漁業経済会議）東京大会では欧米から大勢の研究者が来日し、オプシオンだった現地視察ツアーにこぞって参加するといった例からも、日本の漁業に対する欧米の漁業経済学研究者の関心は年々高まっているように見受けられます。シンポジウム前は「漁業の多面的機能」についてあまりピンと来なかったのですが、いずれ諸外国の研究者の知る所となり、その内容についていつ尋ねられるかも知れない…。その様なことを考えながら、各講演者の方々の発表やその後の討論を大変興味深く拝聴しました。

私は、資源管理・資源経済学の観点から漁業管理の研究をしています。そのような観点で今回の「多面的機能」を自分なりに考えてみると、大前提として健全な漁業資源があり、それが適切に管理されていることがあるように思えます。霞ヶ浦に関する講演の中で、「漁業と言うよりは霞ヶ浦そのものの多面的機能」という内容のスライドがあったと記憶していますが、まさに本質を捉えているように感じました。漁業資源が、平たく言えば魚とその周辺の生態系がなければ、海洋レクや環境保護サービスといった「多面的機能」も存在し得ません。では、資源を護ることと漁業者との繋がりとは何かと言えば、やはり経験に基づく漁業資源の専門知識ではないでしょうか。試験場等の科学的知識と漁業者の経験的知識とを融合させることで、より効果的・効率的な漁業資源管理が可能となり、「多面的機能」の発揮が期待できます。またそうであればこそ、「漁業」という生業の存続が経験の蓄積・伝達のために不可欠であり、よって法律等を含めた周辺整備が必要とされるのではないのか - と言うのが、現時点での私なりの理解と解釈です。

日本の漁業経済学の学会に参加したのは実は今回が初めてでした。「清水の舞台から飛び降りる心境」で参加した懇親会では、当初並み居るベテランの研究者の方々に圧倒され、最初は部屋の隅っこで一人飲んでいましたが、最後は様々な方とお話することができました。何ら予告なしでスピーチに引っ張り出された時は少々参りましたが、お陰で少しでも多くの方に顔を覚えて頂いたのかなと、今振り返れば感謝の気持ちで一杯です。帰国のタイミング等もあって毎年参加できるかどうかは分かりませんが、機会があればまた参加させて頂きたいと思います。

事務局からのお知らせ

< 北方圏国際シンポジウムについて >

紋別市、北海道大学等が主催する表記シンポジウムが、2月19日～22日に、紋別市民会館および紋別市文化会館で開催されます。2月20日には、「我らで護ろうオホーツク海の資源と環境」という特別セッションが開かれ、会員諸氏の中には関心を持たれる方もおられると思います。事務局に案内が届きましたので以上お知らせいたします。なお、詳しくは下記宛お問い合わせ下さい。

094-0031 紋別市海洋公園1番地海洋交流会館内 北方圏国際シンポジウム実行委員会事務局
事務局長；小野哲 TEL 01582-6-2810 FAX 01582-6-2812 E-mail msympo@o-tower.co.jp
ホムペ -ジ http://www.o-tower.co.jp/okhsympo/index.htm

2006年大会開催計画

会場：北海学園大学経済学部(札幌市豊平区)

シンポジウム	11月17日(金)	9:30～17:00
一般報告・総会	11月18日(土)	9:30～17:00
理事	11月16日(木)	18:00～20:00

シンポジウム・テーマ：「日本漁業論の視座」(仮)

コーディネーター：川崎 健(東北大学名誉教授)

次期大会については、昨年の理事会において開催地が決まり、シンポテーマに関してはいくつか腹案が出されました。常任理事を中心にいろいろ内部検討をしましたが、上記のような日程とシンポ・テーマで開催することとしました。

シンポは、日本漁業を巡る内外の情勢変化への対応を意識し、「日本漁業論の視座」(仮称)ということで専門領域別に(自然科学の領域からの提示を含め)、日本漁業の現状認識と政策評価に関する論点を提示して頂き進めようと思います。

このような大きなテーマに関説し、最近積極的に発言をされながら研究活動を推進されている川崎先生にコーディネートして頂くことになりました。「パネルディスカッション形式」で進行しようかとも考えていますが、内容的な詰めや開催の形態、及び話題提供者の問題などこれからの検討です。四月の短信発行の時点でもう少し詰めた提案をしたいと思います。漠然とした提案で申し訳ないのですが、会員の皆さんのどんなご意見でもお寄せ頂き、参考にさせていただきます。

よろしく願いいたします。

〔シンポ担当理事：廣吉勝治〕

北日本漁業経済学会事務局

北海道大学水産学部水産経営教室内

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL/FAX 0138-40-8835

E-mail miyazawa@fish.hokudai.ac.jp

*HP(ホムペ -ジ)；「北日本漁業経済学会」で検索して下さい。

